

# 愛媛県社会福祉士会災害組織マネジメント

## —会員アンケート調査からの再考—

○宇都宮理子（愛媛県社会福祉士会災害支援委員会）（4656）  
久幾田勢子（5361）、岡田多恵子（16268）、河上忠浩（38102）

### I. 研究目的

「平成30年7月豪雨」では、愛媛県も甚大な被害を受けた。愛媛県社会福祉士会（以下当会）は、日本社会福祉士会及び全国社会福祉士会会員の支援を受け、2018年7月18日～11月30日まで、被災状況や支援期間・内容等の異なる3市地域包括支援センター（①長期自県型146名、②短期全国自県混合型29名、③長期全国中心型35名）に全会員552名中55名を交代で派遣した。全会員に対して実態を調査し、災害時における都道府県社会福祉士会の組織マネジメントに資することを目的とする。

### II. 研究方法

全会員を対象に、質問紙による自由記述を含む17項目のアンケートを実施した。調査方法は郵送で行い、調査期間は2019年11月1日～2019年12月31日である。535名中回答が得られた311名（回答率58.1%）について、単純集計、クロス集計を行い、調査項目「支援参加理由」「参加の感想」「支援に必要な提案」「不参加の理由」「参加に必要な要件」「当会への意見」をカテゴリー化して、分析を行った。

### III. 倫理的配慮

今回の報告に関し、公益社団法人日本社会福祉士会のガイドラインに基づき、個人や地域が特定できないよう配慮し、一般社団法人愛媛県社会福祉士会の承諾を得た。

### IV. 結果

回答者311名の性別は男性131名（42.1%）、女性180名（57.9%）。年代は20代9名（2.9%）、30代66名（21.2%）、40代107名（34.4%）、50代88名（28.3%）、60代以上41名（13.2%）。当会支援を知っている256名、知らない51名、未回答4名で、約1割の会員が当会の災害支援を知らなかった。当会支援参加あり39名、なし272名。支援不参加の理由（複数回答）家庭（介護、育児等）99名、勤務先（勤務先での支援、業務多忙等）116名、その他（体調不良、他団体での支援等）89名であった。

回答者をA群（支援を知っている・支援に参加した）39名、B群（支援を知らない・支援に参加していない）51名、C群（支援を知っている・支援に参加していない）221名の3グループに分類し、比較を行った。（支援を知らない・支援に参加した者は0名である。）

表1 事前準備・経験の有無

	災害支援活動協力員登録			災害支援活動者養成研修受講			災害支援経験（H30年以前）		
	あり	なし	未回答	あり	なし	未回答	あり	なし	未回答
A群（39名）	23	14	2	21	18	0	22	17	0
B群（51名）	0	51	0	0	51	0	7	44	0
C群（221名）	11	207	3	12	207	2	38	181	2
合計（311名）	34	272	5	33	276	2	67	242	2

（表1）の通り、A群は協力員登録、研修受講、災害支援経験とも半数以上が「あり」と答えており、B群は協力員登録、研修受講とも「あり」が0名であった。

(表2)はA群「参加の理由」BC群「不参加の理由」を抜粋した。A群は地元・愛媛のために、専門職であるソーシャルワーカーとして役に立ちたい、B群は支援時に未入会や支援を知らなかった、C群は家庭や勤務先、その他(体調不良、被災、他団体での支援等)の理由が挙げられた。(表3)は「参加の感想」「支援に必要な提案」「参加に必要な要件」「本会への意見」の内容を満足・不満足に分類し、カテゴリー化した内容を抜粋した。

参加の理由 (A群39名)	不参加の理由 (B群51名)	不参加の理由 (C群221名)
専門職・ソーシャルワーカーの支援、地元・愛媛のため、つながり、自分なりに現場を経験、学び、今後に役立てたい等	未入会、知らなかった、知っていたとしても介護、勤務先の都合等で難しかった等	家庭(育児、介護)、勤務先(支援、業務多忙)、その他(体調不良、被災、他団体での支援、悪天候で支援終了、派遣への不安等)

	満足	不満足
A群 39名	人の強さ、優しさ、学び、地域支援の掘り起こし、政策への提案、1日だから参加可能、日常業務の延長線上。	疲れ、初対面、短時間での聞き取りの難しさ、十分なことが出来なかった、無力感、迷惑ではなかったか、緊張。
B群51名	協力員登録、研修参加希望、情報提供希望。	支援のハードルが高い、余裕がない、知らず申し訳ない。
C群 221名	今後の協力、協力員登録、研修参加希望、積極的な活動、心強い、参加者に感謝、活動報告が参考になる、被災時、顔見知りの会員に会った時に一人じゃないと感じた。	派遣への不安、足手まといになるのではないかと、スキルや自信がない、参加出来る会員が羨ましい、参加出来ず心苦しい、申し訳ない、イメージがついていかない。

## V. 考察

- 1, A群は(表1)研修受講等の事前準備をした上で、支援を経験した方が多いことから、今後、当会災害支援のリーダー的役割を担う層と期待される。ただ、(表2)「参加の理由」と(表3)「不満足」から、災害支援における理想と現実の違いによる不全感など惨事ストレスを受けた方もいることが推察され、今後のフォロー体制が重要ではないかと思われる。
- 2, B群は当会支援を知らなかったことから、連携の希薄さや情報収集を行う機会がないという現状と当会の情報発信についての課題が浮かび上がった。特に、災害時などの非常時は、通常の広報活動以外の情報提供が必要なため、早急にその対応が必要ではないか。
- 3, C群は人数が多く、(表2)不参加の理由からそれぞれの立場が異なり、育児や介護、勤務先の業務多忙、本人の体調不良など当会として介入出来ない要因もあると思われる。その中で、今後当会が検討可能な内容は、派遣に対する不安を軽減するための対応や被災地に赴く支援以外に被災者や被災地、支援者を支援するための後方支援ではないかと考えられる。また、勤務先や他団体での支援を行った会員も多くみられたため、会員同士で連携を図ることにより、県内の災害支援体制強化につながる可能性もあるのではないか。

## VI. 結論

今回のアンケートにより、一人一人の会員にそれぞれの背景があり、会員の状況や経験等に合わせたマネジメントを行う必要があることが明らかになった。研修体系を初任者、活動者養成、フォローアップとし、スーパービジョンを行うなどの検討が必要である。支援内容は被災地のニーズが最優先であるが、現地に赴く支援だけでなく、後方支援を含めた支援内容の検討や広報活動の見直しなど、当会の災害組織マネジメントには、今後取り組まなければならない多くの課題があることが明らかになった。今回のアンケート結果を踏まえ、更なる災害支援体制構築を目指していきたい。

## 参考文献：

社団法人日本社会福祉士会「東日本大震災災害支援活動の記録 2011.3～2012.3」  
 デビッド・ロモ「災害と心のケア・ハンドブック」アスク・ヒューマン・ケア(1995)